

第4章 各施策の方向性

1 文化芸術の力で「まちに彩りを生み出す」

(1) 多彩で質の高い文化芸術に触れる機会の確保

市民の心に大きな感動と明日への希望をもたらすことで、豊かな生活を実現するため、市民や文化芸術団体、企業等と連携しながら、文化施設（P 47～49参照）を含め、身近なまちのいたるところで、アートや音楽、演劇など、優れた文化芸術に親しむ機会を創出し、暮らしの質やシビックプライド⁴の向上を図っていきます。

また、文化芸術と異分野のコラボレーションやナイトタイムエコノミー⁵の推進などによって、魅力的な時間・空間を生み出し、多世代の多様なニーズに応えるとともに、文化芸術の力を活用してまちの新しい価値を創出していきます。



北九州芸術劇場＋市民共同創作劇
「君といつまでも～Re:北九州の記憶～」(撮影：藤本彦)

⁴ 都市に対する市民の誇りのこと

⁵ 地域の状況に応じた夜間の楽しみ方を拡充し、夜ならではの消費活動や魅力創出をすることで、経済効果を高めること

(2) 地域の魅力的な文化資源の磨き上げ

北九州市には、7区それぞれに地域に根差した文化資源が多数あります。こうした各地域ならではの歴史や文化を際立たせ、差別化を図り、情報発信することで、その魅力を磨き上げ、都市としてのブランド力の構築につなげます。

また、各地域で大切に受け継がれている、戸畑祇園大山笠行事や小倉祇園太鼓などの伝統文化を次世代に伝えていくため、関係者と連携した保存や積極的な情報発信、活用を進めていきます。

さらに、地域の歴史と風土の中で培われてきた文化財や埋蔵文化財などの「市民の宝」を分かりやすく公開し、大切に保存・継承することで、郷土の歴史と文化への理解を深め、郷土愛を育み、まちのにぎわいづくりなどにも活用していきます。



2 文化芸術の力で「豊かな心と活力を育む」

(1) 次世代を担う子ども・若者の文化芸術体験の充実

北九州市の次世代を担う子どもや若者の、豊かな感性や未来を切り開く創造性、一人ひとりに宿る多様な個性を育むため、学校や地域の人材など、社会全体のリソースを最大限に活用して、様々な場所で多彩な文化芸術に出会い、体験する機会の充実を図るとともに、グローバルに挑戦し、活躍する人材の発掘や育成に取り組んでいきます。

また、地域に根付く祭りや芸能、工芸などの伝統文化を守り、未来に伝える後継者や文化芸術の担い手を育成するため、多様な機会と手法を織り交ぜて、若い世代が郷土の歴史や文化芸術に興味を持つきっかけづくりに取り組みます。



(2) 誰もが文化芸術に親しみ楽しめる環境づくり

性別、年齢、障害の有無や国籍等にかかわらず、誰もが自分らしく文化芸術に親しみ楽しめる、インクルーシブな社会⁶を実現するため、多世代かつ多様な価値観や背景を持った人が自然にお互いを認め合い、それぞれの強みを活かしあえる文化芸術の取組を進めます。

とりわけ、障害のある人の文化芸術は、障害者芸術祭などを通して、鑑賞や発表の機会の拡大に努め、障害のある人の社会参加の促進を図ります。

また、各地域の文化祭などをはじめとして、市民が主体となっていく個性あふれる多種多様な文化活動への支援や、地域独自の文化芸術に接し学びを深める機会の確保は、生涯学習や生きがいづくり、健康寿命の延伸にもつながるものです。そのため、日々の暮らしの中で、市民が文化芸術を育み、持続可能な形で活動を継続できる環境づくりに取り組めます。



⁶ すべての人が多様性に富んでいることを前提として、性別・国籍・宗教の違いや障害の有無など、その持っている属性によって排除されることなく、互いを認め合い、誰もが社会を構成する一員として共生できる社会

3 文化芸術の力で「多様な人を惹きつける」

(1) 多世代を惹きつける発信力の高い文化芸術の推進

全国的に多世代の注目を惹きつけ、多様な個性を持った人を呼び込み、まちの活気をさらに高めるため、時代環境やニーズの変化を踏まえつつ、集客力の高い文化芸術やエンタメコンテンツなどを活用し、非日常感を生み出すとともに、人の心を動かす取組を推進していきます。

また、漫画や映画を含むポップカルチャー⁷など、親しみやすく世界的な注目を集めるメディア芸術等の魅力を活用し、聖地巡礼などのロケツーリズム⁸やまちのイメージアップにつながる、発信力の高い取組を進めます。

なお、発信力の強化にあたり、海外、全国、近隣地域など、ターゲットを意識した情報発信に努めます。



北九州国際音楽祭



北九州ポップカルチャーフェスティバル



⁷ 漫画・アニメ・ゲーム・映画などの大衆向け文化のこと

⁸ 映画・ドラマのロケ地を訪ね、風景と食を堪能し、人々の“おもてなし”に触れ、その地域のファンになること

(2) 地域の魅力的な資源を活かした文化観光の推進

北九州市の文化資源が持つ魅力を伝え、文化振興に再投資される好循環や地域経済の好循環を生み出すため、ユネスコ世界文化遺産に登録された「官営八幡製鐵所関連施設」や、日本遺産に認定された「関門“ノスタルジック”海峡」、小倉城など、地域に根付く魅力的な歴史文化資源や、地域の特徴を捉えた官民の様々な主体が運営するミュージアムと連携した文化観光を推進していきます。

また、これまでの取組に加えて、寿司や焼肉など、新たに注目を集める食文化を活用することで、北九州市ならではの体験価値を創出し、都市ブランドの向上につなげます。

加えて、外国人目線に立った魅力的なコンテンツの発掘や磨き上げ、感動的で記憶に残るストーリー化など、地域独自の歴史と文化を活かしてインバウンド観光につながる取組も推進します。



写真提供：日本製鉄(株)九州製鉄所

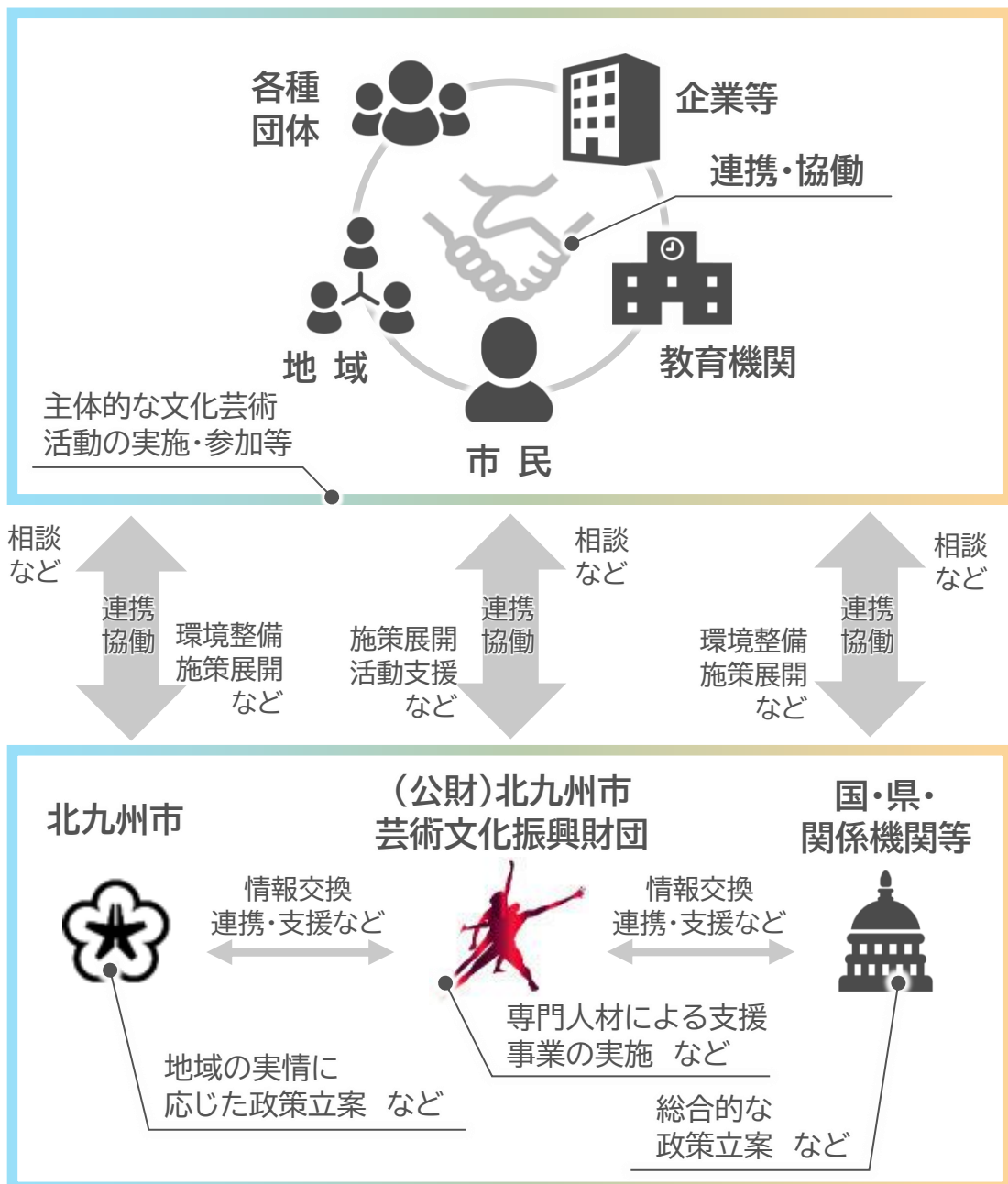


第5章 北九州市文化芸術推進プランの推進

1 推進体制

北九州市文化芸術推進プランの基本理念を実現するために、市の文化部門や文化関連施設だけでなく、経済や観光、福祉などの関係部門と連携を図りつつ、効果的かつ着実に実行していきます。

また、市の文化振興を担う「公益財団法人北九州市芸術文化振興財団」や文化芸術関連団体、文化芸術活動を行う市民や企業など、各ステークホルダーの役割や強みを踏まえながら、相互に連携・協働してプランを推進していきます。



2 推進にあたっての指標

北九州市文化芸術推進プランの推進にあたっては、以下を主な指標とし、文化芸術の特性を踏まえ、定性的な側面も捉えながら、目標の達成に向けて、各施策を展開していきます。

項目	現状値（R4）	目標値
文化のかおるまちと思う 市民の割合	28.5%	40.0% (R11)
文化芸術を身近に感じる 市民の割合	30.5%	40.0% (R11)
文化芸術活動をした 市民の割合	16.9%	30.0% (R11)
観光消費額	827億円	1,800億円 (R10)